



©Yusuke Nishibe

P R O J E C T O M I S H I M A 2 0 1 5

# 日本一美しい島・ 大三島をつくらう プロジェクト2015



愛媛県今治市大三島

ディレクター

プロジェクトメンバー

伊東豊雄 伊東建築塾+神奈川大学曾我部・吉岡研究室+昭和女子大学杉浦久子研究室

会期|2015年7月3日[金]—2016年6月15日[水] 開館時間|9:00—17:00 休館日|月曜日(祝日の場合は原則翌日振替)、年末  
観覧料|一般:800円、学生:400円 ※団体(20名以上)、65歳以上は2割引、高校生以下または18歳未満無料、障害者とその介助者1名無料

2015年7月3日スタート 今治市伊東豊雄建築ミュージアム  T.I.M.A



瀬戸内の美しい多島海の中央に位置する大三島は、人口約6,200人を有する、瀬戸内海で5番目に大きな島です。温暖な気候に恵まれ、みかんを中心とした農業が盛んで、冬から春にかけてはさまざまな種類の柑橘が景色を彩ります。また、島の中心部には日本総鎮守と呼ばれる大山祇神社が鎮座し、歴史ある「神の島」としても知られています。この地に日本初の建築ミュージアムとして開館した今治市伊東豊雄建築ミュージアムにて開催中の展覧会「日本一美しい島・大三島をつくろうプロジェクト」は、今夏、展示の一部をリニューアルします。伊東豊雄が塾長を務める伊東建築塾の塾生有志が2012年から始めたこのプロジェクトは、2014年から神奈川大学曾我部・吉岡研究室や昭和女子大学杉浦久子研究室も加わり、島の各地で、人びとが集える小さな場所づくりに取り組んでいます。本展では、こうしたプロジェクトの進捗を紹介するとともに、島の景色や人びとの営みを伝える写真や映像も展示します。太陽と海の恵みを楽しみながら長い歴史を刻んできたこの島には、海と山に囲まれた美しい風景、潮風を浴びて育った柑橘、そして自然と共にある人びとの暮らしが、今もなお脈々と受け継がれています。ぜひ実際に大三島を訪れて、こうした島の魅力を堪能していただければ幸いです。



2011年に今治市伊東豊雄建築ミュージアムが開館して以降、度々大三島を訪れるようになりました。同時期に立ち上げた伊東建築塾の塾生たちも、島を訪れた際、自然に接して暮らす人びとの生き活きとした姿に心を打たれ、自主的に島に通うようになりました。初めて島を訪れた人の多くが魅了されてしまうような不思議な力が、この地には確かに存在していると感じています。

私はこの大三島という素晴らしい地域に場所を定め、多くの若い人びとの力を借りて、これから長い時間をかけて島づくりに取り組むことを決意しました。経済の豊かさよりも心の豊かさを求めるようになった今、私たちは地域に目を向け、自然に開かれた生活を考える時期を迎えています。地域の人びとと語りあい、一緒に新しいライフスタイルをつくることこそが、今求められているのです。

伊東豊雄

## 伊東豊雄 いたう・とよお

1941年生まれ。1965年東京大学工学部建築学科卒業。主な作品に「せんだいメディアテーク」「多摩美術大学図書館(八王子キャンパス)」など。現在、「台中国立歌劇院(台湾)」「みんなの森 ぎふメディアコスモス(岐阜県)」等が進行中。日本建築学会賞作品賞、ヴェネチア・ビエンナーレ「金獅子賞」、王立英国建築家協会(RIBA)ロイヤルゴールドメダル、プリツカー建築賞など受賞。

主催：今治市、今治市教育委員会、NPOこれからの建築を考える 伊東建築塾

助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

協力：伊東豊雄建築設計事務所、海sora&花結び、愛媛県立今治北高等学校大三島分校、大三島ふるさと憩の家、上浦町地域おこし協力隊、菅 昭十四、kiki's 苺ハウス、Jishac、株式会社しまど、NPOしまなみアイランド・スピリット、しまなみイノシシ活用隊、青陽建築設計工房、多田脩二構造設計事務所、旅館 茶梅、鍋島悠弥、NPO能島の里、花澤家族農園、べじべじ自然農園、三島電業社、レストランよし川、吉川 努、移動カフェ ロコバス

ディレクター：伊東豊雄 アソシエイトディレクター：高野洋平、古川きくみ、吉岡寛之

プロジェクトメンバー：伊東建築塾(荒武優希、粟野寿朗、イトウジュン、大崎雅洋、木戸正典、木平岳彦、木村真緒、小迫欣弘、小森陽子、鈴木ますみ、須永 杏、須永泰由、瀬戸洋樹、高橋千里、千野和博、辻 美和、中村鈴子、西山和臣、長谷川欣則、俵谷知英子、南 宣宏、吉田祐介、吉村隆之)、曾我部昌史+神奈川大学曾我部・吉岡研究室、杉浦久子+昭和女子大学杉浦久子研究室  
写真：西部裕介、高橋マナミ 映像：田中英行 音楽：石田多朗 グラフィックデザイン：丸山智也



©Yusuke Nishibe

## EXHIBITION 展覧会

大三島には13の集落があります。今こそ陸路が整備され、集落間の往来は容易になりましたが、かつては海上交通が中心で、島内よりも周辺の島々との交易が盛んだったこと、また、海や山の間の限られた土地に集落を築いてきた結果、集落ごとに少しずつ異なる文化や生活習慣が形成されてきました。本展では、13の集落の紹介に始まり、プロジェクトルームでは「瀬戸」「宮浦」「宗方」の3つの集落と、大三島からしまなみ海道でつながる「大島」における“人びとが集える小さな場所づくり”のプロセスを紹介します。集落に点在する空き地や空き家を活用したり、島の伝統文化に寄り添う空間や地場産物を発信するカフェを建設したり、島内外の人びとがゆるやかに交わる多様な場所のつくり方を示します。



瀬戸/象の鼻休憩所



宮浦/大三島の「みんなの家」  
©Manami Takahashi



宗方/船ノウチ



大島/石のカフェ  
©Manami Takahashi

## EVENT イベント

7月3日[金]9:00—17:00

### 「日本一美しい島・大三島をつくろうプロジェクト2015」内覧会

終日入館無料で、リニューアルしたばかりの展覧会をご覧ください。どなたでもお気軽にご来館ください。  
※12:30—14:30 大三島の柑橘を使用したドリンクやスイーツを販売する移動型カフェ ロコパスが登場します。  
※13:30—14:00 シルバーハットにて、伊東豊雄とプロジェクトメンバーによるオープニングトークを行います。



©Manami Takahashi

7月4日[土]14:00—16:00(13:30開場)

平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

### トークイベント「絶体絶命のデザイン」



高知を拠点に活躍するデザイナー・梅原真氏をゲストに迎え、トークイベントを開催します。  
一次産業にデザインを掛け合わせて「あたらしい価値」をつくりつづけてきた梅原氏から、これまで携わってこられた数々のプロジェクトをご紹介いただき、これからの一次産業の可能性を探ります。  
出演者:梅原 真(デザイナー)、伊東豊雄(建築家/今治市伊東豊雄建築ミュージアム名誉館長)  
会場:大三島ふるさと憩の家 愛媛県今治市大三島町宗方5208-1 定員:100名 参加無料 申込不要  
主催:大三島を日本でいちばん住みたい島にするプロジェクト実行委員会

梅原 真 うめばら・まこと

高知市生まれ。一次産業がしっかりしない国はユタカではない。地域の「漁業」・「農業」・「林業」に「すこ〜〜しデザイン」を加え、「あたらしい価値」を作り出すことによって、風景とともに土地が持つ可能性を持続させるオモシロサをシゴトとしている。「漁師が釣って、漁師が焼いた」のキャッチフレーズでプロデュースした「土佐一本釣り・薬焼きたたき」。「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」をコンセプトにした砂浜美術館。四万十川流域の農業を持続・再生する「しまんと地栗」「しまんと紅茶」。四万十川流域で販売するものはすべて古新聞で包もう!をコンセプトに始めた「しまんと新聞ぼっく」。高知県の森林率84%をアッカルクタノシム「84(はちよん)プロジェクト」。武蔵野美術大学基礎デザイン学科客員教授。

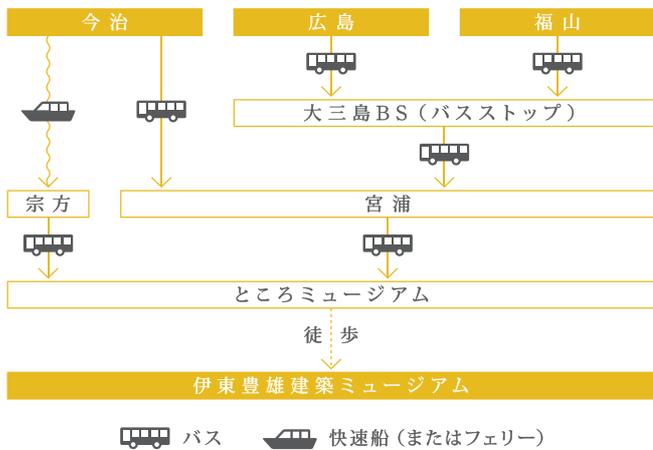


# MAP マップ



# ACCESS アクセス

JR/バスでお越しの方は



お車でお越しの方は

- 瀬戸内しまなみ海道・大三島ICから約25分
- タクシー: 上浦交通有限会社 Tel:0897-87-2400

中国[広島市・福山市]側から

- JR/バス: 広島バスセンターまたは福山駅→しまなみライナーにて「大三島BS」下車・乗換→島内路線バスにて「宮浦港」下車・乗換→島内路線バスにて「ところミュージアム」下車→徒歩約3分

四国[松山市・今治市]側から

- JR/バス: 松山市駅→今治駅→特急(または急行)バスにて「宮浦港」(または「宮浦農協」)下車・乗換→島内路線バスにて「ところミュージアム」下車→徒歩約3分
- 船舶: 今治港→快速船(またはフェリー)にて宗方港→島内路線バスにて「ところミュージアム」下車→徒歩約3分